

共同農園プロジェクト  
～被災エリアでの農園整備の実践を通して～  
最終報告書

NPO 法人アプカス 堀池 舞子 伊藤俊介



## 目次

1. 共同農園開催の背景と目的
2. 実施内容(共同農園開催の流れ)
3. 共同農園のデザイン
4. 考察と今後に向けて
5. 資料(農園のチラシなど関連資料)

## 1. 共同農園開催の背景と目的

### 【背景】

#### ・生活不活発病と農業技術ストックの高さ

私たちが共同農園を開催しようと考えたのは、2012年1月の事だった。

その頃は、仮設住宅への入居が完了している時期であったが、冬の寒さの為に高齢者の仮設住宅の居住者が、外に出ずに部屋の中に閉じこもり、あまり体を動かさないことが原因で起こる「生活不活発病(※1)」が問題として上がっていた。実際に、「仕事をしないから、時間はあるのにやることがない」といった高齢者の声をよく耳にした。私たちが活動する気仙沼市本吉町では専業農家は少ないが、「多くの人が家の近くにある田畑で元々農作業をし、自分で育てた野菜を食べ、近隣住民にお裾分けをする文化」が、生活の一部になっていた。東日本大震災の津波被災で、家だけでなく生活の一部であった畑までも流された住民も多い。私たちが仮設住宅を回る際には、玄関先にはプランターで栽培される花や野菜を多く見られ、団体の支援で配られた野菜のプランターを立派に育てている居住者も多く、農業技術の基礎的なレベルの高さがうかがわれた。

生活不活発病を予防し、少しでも症状を和らげるためには、まずは家の外に出て、そして体を動かすことであり、仮設住宅から歩いて行ける距離の所に畑を借りてそこで住民が農作業を行うことになれば、行き帰りのウォーキングに加え、畑での農作業で体を動かし、生活不活発病の予防にも繋がると考えた。なお、2007年7月16日に新潟県で起こった中越沖地震の時に山古志村で行われた仮設住宅団地周辺における共同農園でも、『生きがいになった、交流のきっかけになった』などの効果があったと発表されており(※2)、農作業には、体の健康に加え、心の健康にとっても大きな効果があることも多くの確認されている。

### 【目的】

#### ・農園の設置、運営を通して、農作業を通した参加者の健康増進や交流をはかる

#### ・人が集う場所に育てる

農作業を行うだけでなく、畑を行う住民同士や、畑の周りを行き交う人と畑を行う住民の交流の場にするという目的も設定した。

#### ※参考:「生活不活発病」について

##### ○主な症状

全身のあらゆる機能が低下する。様々な心身機能低下が、同時に少しずつ起こる。それらの総合的な影響で、まず、全身を使って行うこと、つまり、歩いたり、立ち上がったり、段を上ったり、そのほかのさまざまな日常生活上の動作(「活動」)がやりにくくなったり、疲れやすくなったりする。

##### ○生活不活発病になる主な理由

##### 1. することがない

- ・自宅での役割(家事・庭いじり、畑仕事、など)がなくなった
- ・地域での付き合いや行事がなくなった、
- ・老人クラブや趣味の会が休止中、解散した、など

##### 2. 遠慮して(遠慮させられて)

- ・「災害時に散歩やスポーツをするなんて」と思われそう

- ・家族の「危ないから外に出ないで」、「年だから動かないで」
- ・「迷惑になるから動かないで」
- ・ボランティア等支援者の「自分達がやりますから」

### 3. 環境の変化

- ・家の中や庭が散乱したり、周囲の道が危なくて歩けない
- ・行きたい場所がなくなった
- ・外出しにくい  
(交通機関が少ない、一緒に外出する友人・家族がいなくなった)
- ・本人ができるのに周りがやっけてあげる

#### ○予防と回復のポイント

生活が不活発になって起こるものなので、その逆に「1日の生活(全体)を活発化する」ことである  
なお、生活不活発病チェックリストも一般公開されている

- ・生活不活発病チェックリスト [http://www.dinf.ne.jp/doc/japanese/resource/bf/fig6\\_zaitaku.pdf](http://www.dinf.ne.jp/doc/japanese/resource/bf/fig6_zaitaku.pdf)

(公財)日本障害者リハビリテーション協会(JSRPD)WEB より抜粋

※参考:新潟中越沖地震時に山古志村で行われた仮設住宅団地周辺における共同農園事例

新潟中越沖地震時に仮設住宅団地の近隣地に設置した陽光台仮設農園(いきがい健康農園)の実施内容とアンケート調査による効果について触れられている

[http://www.toyo.ac.jp/rc/cdws/annualreport/pdf/vol3\\_21.pdf](http://www.toyo.ac.jp/rc/cdws/annualreport/pdf/vol3_21.pdf)

応急仮設住宅団地における集会所と農園の効果／青柳 聡

## 2. 実施内容(共同農園開催の流れ)

家を流されて普段の日常が奪われただけではなく、今まで当たり前に行ってきた農作業を行えなくなるといことは、きっと私たちには計り知れないストレスであり、今までのような大きさの畑を提供することは出来ないが、ほんの小さな区画でも良いから、今まで自分の畑で当たり前のようにやっていたことをやって欲しい。そんな思いから、私たちの“共同農園プロジェクト”が始まった。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
実施内容の打ち合わせ	1月～3月											
共同農園のニーズ調査	1月①～5月⑤											
農地の選定	1月①～4月④											
土地の決定				4.12								
農地の整備				4月⑥～6月⑩								
掲示板の設置					5月⑫							
希望調査&チラシ配布					5月⑫							
参加住民への説明会					5.25、26							
掲示板へ案内						6月⑬						
休憩所の設置							7月⑭～9月					
掲示板へ看板設置								9.15				
堆肥場作り												12.12

図1 共同農園実施のスケジュール

### 【各活動の概要】

#### ・実施内容の打ち合わせ

2012年1月よりアプカス関係者にて行い、話し合った内容に沿って、「赤い羽根災害ボランティア・NPO 活動サポート募金」の助成金申請(同年2月末締切募集)を行い、4月に助成が決定した。

#### ・共同農園のニーズ調査

1月20日頃、津谷地域3箇所の仮設住宅(旧農業改良普及センター跡地/津谷高岡住宅跡地/津谷小学校)で実施。結果として、津谷高岡住宅でのニーズが多かったため、その周辺で畑を選定した。

#### ・農地の選定

地域住民の協力を得て、2箇所の畑が候補として上がった。参加予定者から意見を聞き、土地所有者の方へお願いをした。

#### ・土地の決定

2012年4月12日に信用金庫隣の畑を借りることに決定。なお、被災者を支援したいという意向もあり、貸与は無償となった。しかし、事業用の土地利用の申し出があるということで、農園としての貸与期間は、不確定であった。

#### ・農地の整備

石拾い、土壌改良(ココソイル)、石灰、堆肥入れ等を行い、区画整備を実施した。

#### ・掲示板の設置

参加者の呼びかけ、畑を開催するという周知のために、掲示板を設置した。

#### ・希望調査&チラシ配布

仮設住宅の住民へ。津谷高岡、津谷小、旧農業改良普及センターで実施。2012年5月23日を応募締切日とし

た。

・参加住民への説明会

利用区画、農園使用ルール決定、道具の使い方等の説明を行った。

・掲示板へ案内

ルール&道具の使い方の説明ポスターの設置

・休憩所の設置

掲示板へ、酪農学園大学、明石高専の学生の協力により看板設置

・堆肥場作り

刈った草や、枯れた作物を置けるように2m×2m 四方の1辺開きの木枠を設置

【活動に関する写真】



2012.1.21 実施内容の打ち合わせ  
(アプカス関係者にて)



2012.1.25 共同農園の二ーズ調査  
(旧農業改良普及センター跡地/津谷高岡住宅  
跡地/津谷小学校)



2012.4.25 当初の畑のようす



2012.4.30 畑の始まり  
(佐藤雅昭さんにより、耕耘していただく)



2012.5.9 石取り作業



2012.5.24 響高校の学生と畑整備



2012.5.21 畑整備のようす



2012.5.09/5.12 土壌改良(ココソイル投入)



2012.5.20 石灰散布



2012.5.18 掲示板に畑の呼びかけ設置



2012.5.20 堆肥搬入



2012.5.25 住民説明会



2012.6.11 開催当初の畑の様子



2012.7.16 畑作業のようす



2012.9.15 看板設置  
(ボランティアで来てくれた学生より)



2012.11.3 畑の様子



2012.12.17 畑の様子



2012.12.21 堆肥所の設置

### 3. 共同農園のデザイン

#### ○畑の区割り

今回整備した共同農園「みんなの畑」は、全部で10区画である(以下の写真のビニールテープで囲まれた土地が一区画分(7m×4m)の畑となる)。



農地の選定に関して、候補地は2箇所あった。当初すでに畑として利用している場所を無償貸与してくれる話があったが、場所が仮設住宅より離れており、畑自体があまり大きくないため小人数しか区画が取れないという理由でその畑を断念した。結果として、地域の協力者が、本吉町の中心部の土地(宮城県気仙沼市本吉町津谷新明戸190)を紹介してくれ、以前水田だった土地を無償で貸与してくれた。だがその土地は、山土を持って来て嵩上げしてあるため、土は固く、栄養分が乏しく、石がゴロゴロ出てくる等、作物栽培に不適な土壌であった。そこで、2012年4月より、土地の半分(20m×17m程)を農地に整備するために、石を取り除き、土壌改良の為に石灰、ココソイル(※3)、牛糞堆肥(近隣の酪農家から無償提供、その後、畜産の観光施設モーランドから“もとよし有機”購入)を投入し、栽培に適する土に少しでも近づけるよう、改良を行った。

#### ※参考:「ココソイル」とは?

ココソイルとは、ヤシ殻の中果皮(ハスク)から繊維分を採取した後に残った残渣から有害成分(塩分、タンニン)を除去し、乾燥し圧縮成型した有機質培養土である。特徴としては、細かい粒子が団粒化を促進して、保水性・排水性・通気性が高く根の発育を促進させるのに役立ち、いったん乾かしてもすぐに水分を吸収することが出来る。また、有機質なので使用後も簡単に土壌に還元でき、再生可能な資源として注目されつつある。なお、ココソイル自体に養分は含まれていないが、土壌微生物の分解を受け難く、数年間は安定して土壌の物理性の保持に役に立つ。今回は、アップカスが活動するスリランカの専門業者より、購入した。

#### ○ココソイルの概要

<http://www.madurawing.net/cocosoil.htm>

#### ○平石ミックス

腐葉土 : ココソイル : もとよし有機(牛堆肥) = 5 : 3 : 2 の割合でミックスしたもの

上記の割合で混ぜ、土を作った。これを、津谷小学校仮設住宅集会所の屋根に、暑さ対策としての屋上緑化用の土として使用した。

○土壌診断結果

土壌診断結果

分析 本吉農業改良普及センター  
分析年月日 2012年05月11日

基本データ

ID・サンプルNo.	32	0	生産者名	NPO法人 アプカス
農協名	JA南三陸		サンプル名 (圃場名)	
圃場市町村	気仙沼市		作目など	0
圃場種類	露地畑		土壌分類	灰色低地土

分析データ

項目	結果	適正範囲		単位
		低	高	
pH(H <sub>2</sub> O)	5.9	5.5	6.0	
電気伝導度 EC	0.01	上限値→	0.25	mS/cm
石灰 CaO	265	316	395	mg/±100g
苦土 MgO	129	57	85	mg/±100g
カリ K <sub>2</sub> O	30	27	53	mg/±100g
苦土カリ比	4.3	1.1	3.2	
リン酸 P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	1	20	50	mg/±100g
硝酸態窒素 NO <sub>3</sub> -N	0.0	上限値→	4.0	mg/±100g
陽イオン交換容量 CEC	28	←分析値	—	meq
ケイ酸 SiO <sub>2</sub>	—	—	—	mg/±100g
腐植含量	—	—	—	%

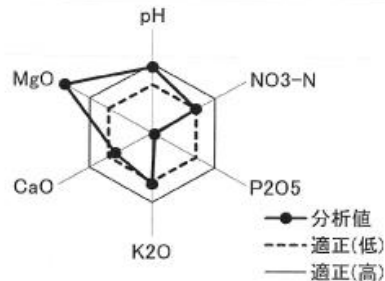
  

石灰飽和度	33.5	40.0	50.0	%
苦土飽和度	22.7	10.0	15.0	%
カリ飽和度	2.3	2.0	4.0	%
塩基飽和度	58.5	52.0	69.0	%

土壌改良 必要成分

	(kg/10a)		目標までの土壌改良 資材施用の一例
	目標までの土壌改良	最低限の土壌改良	
石灰 CaO	82	46	肥料石灰 120 kg/10a
苦土 MgO	0	0	苦土重焼燐 90 kg/10a
カリ K <sub>2</sub> O	0	0	
リン酸 P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	31	17	塩化カリ 25 kg/10a

余剰肥料成分 (kg/10a)	
余剰窒素 NO <sub>3</sub> -N	0
余剰リン酸 P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	0
余剰カリ K <sub>2</sub> O	0



畑を使えるようになるまでは、小石を取り除いたり、土壌改良を行ったり、多くの資材の投入と労力が必要となったが、アプカススタッフやボランティアが中心になって整備を行い(スケジュールの詳細は、「2.実施内容(共同農園開催の流れ)」の実施スケジュールを参照)、その後、区画分けした上で、参加希望者に引き渡した。

また、整備の中で、近隣の住民のみなさんが差し入れをしてくれたり、地元高校のボランティア部学生が石拾い作業を手伝ってくれたり、JA や農業改良普及センターなどの農業関係者が、土壌改良のアドバイスや耕耘機などの農耕器具を貸し出してくれ、多岐に渡ってサポートをいただいた。

共同農園の区分け・運営方法については、区割りを参加者自身の希望に応じて行ったり、共同で同じ区画で育てたりするなどの方法も考えられたが、「1人が決まった広さの区画(7m×4m)で、好きな野菜を育てる」一

一般的な市民農園の方式を採用した。なお、参加者の中には、今後、7m×4mの畑では区画が狭く、じゃがいもなどの長期に渡る作物を栽培すると他の野菜を植えられなくなってしまうということから、もう1区画借りたいという人もいた。

なお、区画利用に関しては一切無料とし、育てる作物の苗や種は自己負担で、好きな作物を栽培してもらうこととした。

### ○農園の参加対象者

最終的には、津谷地区の仮設住宅居住者5名(津谷小学校仮設団地、津谷高岡住宅跡地仮設団地)が参加を希望した。なお、当初は、仮設住宅に限らず、みなし仮設や在宅避難の被災世帯も対象にできないか検討したが、そういったカテゴリーの被災グループ全体にアクセスすること自体が情報不足(個人情報保護の観点から行政から情報提供を受けられなかった)のため困難だった。また、畑周辺地区の自治会長さんに協力を得て、近隣のみなし仮設や在宅避難の被災世帯の方を紹介してもらうことができた機会もあったが、紹介してもらった時には震災から1年3ヶ月以上が経っており、「今更どのように声を掛けたら良いのだろうか、畑以外にも大きな問題があった時に、今の自分たちにどのように関わって行けるのだろうか」等の迷いもあり、アクセスすること自体を躊躇してしまっただけの部分も正直あった。

当初は交流の場としての役割を担うため、被災された方だけに限らず、被災していない地域住民や畑の近くの住民も対象者に入れるよう検討してみたが、地元の協力者の数名が、「対象者に非被災グループが含まれると被災者支援という趣旨から変わってくる」ということで、対象者は『被災された方のみ』とした。結果的には、被災していないグループの住民の多くは自身の畑や菜園を持っており、共同農園に参加するニーズはそれほどなかったかもしれないが、地域全体の交流促進という点からは、もう少し非被災グループの参加方法を模索する必要があったのではないかと考えている。



農園内への貯水タンク設置の様子

と被災者支援という趣旨から変わってくる」ということで、対象者は『被災された方のみ』とした。結果的には、被災していないグループの住民の多くは自身の畑や菜園を持っており、共同農園に参加するニーズはそれほどなかったかもしれないが、地域全体の交流促進という点からは、もう少し非被災グループの参加方法を模索する必要があったのではないかと考えている。

### ○貯水タンクの設置と水の供給

農業用水の利用に関しては、自由に使ってよいということで、水利組合の会長から水を使用する許可をいただいた。そこで、農園敷地内に高密度ポリエチレン製の貯水タンクを設置し、農業用水路から貯水タンクへの水の供給は手動のポンプ(忍法! 忍にん・エコセット)を購入し、吸水口にゴミが詰まらないように工夫しながら、スタッフやボランティアが定期的に給水作業を行った。

### ○共用の農業用具

用具の持ち帰りの負担の軽減や「農業用具がないから農作業ができない」という意見が出るのが予想されたため、農業用具は共用とした。鍬、シャベル、ホー、レーキ等をアプカス側で準備し、畑の農業用具入れに入れておき、参加者が自由に使えるようにした。

### ○農園内の休憩スペース 《きゅうりパイプネット仕様(撤去済)／ビニールハウス仕様(建設予定)》

参加者の休憩場や共同農園の前を通りかかる人の集いの場として、仮設住宅の住環境改善に参加してい

る関西の建築専門家チームの力を借り、キュウリ支柱の骨組みを利用して、農園内に簡易的な日よけスペースを設置した。ただ、実際にこの休憩所を集いの場として活用するには、スタッフの配置やスペースのデザインなど、それなりの労力を費やす必要があり、作業の休憩所以上の場所としては機能しなかった。また、簡易のビニールハウスを利用した休憩所は、今後、建築チームによって設置予定である。

### ○放射能測定

福島第一原子力発電所の事故により、広域な地域に放射線物質が拡散し、今もなおその影響は続いている。宮城県気仙沼市やその周辺の市(登米市、栗原市など)のブルーベリーや米などの農作物からも基準値以上の放射性物質が検出されることもあった。

そのため、福島第一原子力発電所から約160km離れた気仙沼市本吉町でも、小さな子どものいる家庭では、「庭で出来た野菜を食べるのも心配だ」など放射能に対する不安の声も多く聞かれた。このような不安を少しでも軽減するために、専門家に依頼し、畑の土壌放射濃度を測定してもらった。この放射能測定は「もとよし農業くらぶ(本吉町内で共同農園を開催する支援者団体の集まり)」で実施することを決め、関係者で話し合いを行った上で、参加者から声が上がらなければ、あえてこちらから数値の発表をすることは控えることとした。

対象	核種	放射能濃度 Bq/Kg	合計放射能濃度 Bq/Kg	検出限界 Bq	定量下限 Bq/Kg
津谷 1	Cs-134 605KeV	17		3.6	6
	Cs-134 796KeV	16		4.8	8
	Cs-137	26	42	4.4	7
津谷 2	Cs-134 605KeV	23		3.6	5
	Cs-134 796KeV	24		4.8	7
	Cs-137	29	53	4.4	6
津谷 3	Cs-134 605KeV	0		3.6	4
	Cs-134 796KeV	8		4.8	6
	Cs-137	8	12	4.4	5
津谷 4	Cs-134 605KeV	17		3.6	5
	Cs-134 796KeV	12		4.8	7
	Cs-137	22	36	4.4	6

Cs-134の合計放射能濃度は2つのエネルギーの放射能濃度を平均した。  
 定量下限は検出限界を1Kg当たり換算した値です。  
 放射能濃度欄の0は定量下限未満という意味です。(汚染がないという意味ではありません)

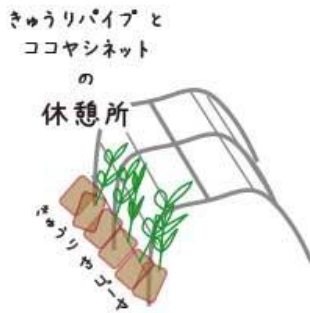
図 2 津谷地区の同乗中の放射線測定結果(2012年6月)

上記の結果より、すべての計測ポイントで国の定める作付制限値(水田において5000Bq/kg)を大幅に下回っている。また、合計放射能濃度 Bq/kg が0やNDとなっていないが、作物栽培を行える値と考え、共同農園の運営には支障がないと判断した。

○整備時から 2012 年 8 月 31 日(春期～夏期)までの農園のレイアウト

～8月31日

地主さんの小屋



牛糞堆肥

屋上緑化用の平石ミックス等資材置き場



農業用水



看板



出入り口

○整備時から 2012 年 9 月 1 日から 12 月 21 日 (秋期～冬期)までの農園のレイアウト

9月1日～12月17日

地主さんの小屋

はんちくの土を得るために出来た段差と、穴掘りて出た土の山



夏の休憩所用に掘った穴。

はんちくテーブル

屋上緑化用の平石ミックス等資材置き場



給水タンク

農業用水

草集め場



看板



出入り口

## ○育てていた作物の栽培暦

2012年	1月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月														
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬												
○ 作物の栽培スケジュール																																										
A さつまいも										播種																																
B 枝豆																																										
C トマト										定植																																
D きゅうり																																										
E なす																																										
F かぼちゃ																																										
G 二十日大根																																										
H ズッキーニ																																										
I ブロッコリー																																										
J キャベツ																																										
K ねぎ																																										
L とうがらし																																										
M アプカストマト(甘太郎)																																										
N アプカスミニトマト(鈴っ子トマト)																																										
○ 各作物種における栽培のポイントなど																																										
A さつまいも	苗は斜めに植える 土寄せを2回する																																									
B 枝豆	あまり水を上げすぎない。芽かきをこまめに行う																																									
C トマト	水を好む作物なので、水やりをこまめに行う																																									
D きゅうり	肥料をたっぷりやる																																									
F かぼちゃ	虫(アブラムシや青虫)に狙われやすいので、こまめに虫取りをする																																									
I,J キャベツ、ブロッコリー	ねぎを寝かせるように斜めに植え、成長に合わせて土寄せをする。																																									
K ねぎ	定植時期が遅れたため、実が赤くならず終わってしまった																																									
M,N アプカストマト類																																										
○ グリーンカーテン用に拠点で育てていた苗																																										
オカワカメ	定植場所と定植時期が遅れたために、多くが枯れてしまった。																																									
四角豆	定植場所と定植時期が遅れたために、多くが枯れてしまった。																																									
ひょうたん	定植場所がなく、枯れた。多くの栄養を必要とする																																									
ヘチマ	定植場所がなく、枯れた。栽培には多くの水を必要とする。																																									
※播種するとき、植える場所を検討し、播種数も考えておくことが大事。																																										

## 4. 考察と今後に向けて

### ○農園参加者の声

京都大学研究員の前田昌弘さんが、津波被災者への居住支援と“信頼構築”の関係に関する研究の一環で、支援を受けた側のみなさんにインタビュー調査を進めている。その中で、アプカスの共同農園参加者に対するインタビュー調査(2012年9月に実施)を行い、複数の参加者から、共同農園への参加動機や参加の効果などについて、詳細なヒアリングを実施した。

#### 【ヒアリングを通してわかった参加者の共同農園への参加動機】

- 最初に畑の話をされたとき、(2012年1月下旬)まだ何かやろうという気になっていなかった。しかし、実際に畑が始まる5月には、やってみたいなあという気持ちになり、畑を借りることにした。
- 畑が近かったから
- 私たち(ボランティア)が、一生懸命畑を整備するのを見て、誰もやらないと可哀想だな…と思って。
- 他の所にも畑は借りていたが、気軽に行ける近場にも欲しいと思って
- 何か始めたいと思っていたから  
(上記を答えてくれた方は、結局忙しくて畑の参加は出来なかった)
- 農機具が全部用意されていたから
- いつまで畑を借りられるか分からないので、今後の仮設から本設への移行期間に、畑をするべきか悩んだが参加を決めた

### 【ヒアリングを通して、参加者に確認されたプラスの効果】

- 共同農園が、外に出るきっかけになった
- 共同農園が、体を動かす機会になった
- 交流やコミュニケーションを取るきっかけになった

(元々同じ地域に住んでいた人が別々の仮設住宅に住むことで、疎遠になっていたものが、畑で会って話すきっかけになっていただけでなく、元々は顔見知りでなかった畑参加者同士の交流のきっかけにはなった事例もあった)

- 元々家の周りで畑をしていた人に、自分のやり方で農作業をしてもらい、収穫した作物を人に分けるといった被災前から当たり前に行っていた「自分で育てた野菜を食べる&人にお裾分けをする文化」を多少なりとも取り戻してもらったきっかけになった。

### ○他団体、地元支援組織との連携

また、アプカスの共同農園だけではなく、地元の被災者や高齢者支援ネットワーク(社会福祉協議会、サポートセンターなど)、他の地区で支援団体(RQ 小泉、シャンティ国際ボランティア会(SVA))が実施している共同農園事業と連携して、農業や土いじりをキーワードに地域内でゆるやかな連携ができる体制(「もとよし農業クラブ」)の構築を目指し、今後の農業振興につなげることができないか何度か話し合いを持ったが、実際は自分たちの畑を進めるだけで手一杯になってしまい、「もとよし農業クラブ」を発足させることはできなかった。

なお、RQ 小泉は、小泉地区で5人を対象に、津波被害のあった農地(白樺仮設住宅を下った場所)ではあるが、そこで除塩作業、がれき撤去を経て畑の開催を行っている。畑の整備を開始した2012年6月下旬には、アプカス側のボランティアも派遣して、住民とともに区画を決めるなど、連携することができた。RQ 小泉は、カゴメのCSR活動「りりこワクワクプログラム」と連携し、トマトを中心に作付けを行い、生育は概ね順調であったとのことで、2013年もトマトを中心として試栽培を継続し、特にお年寄りの仕事作りとしてのトマト作りができないか模索していくとのことである。

### ○小泉共同農園の畑の様子(RQ 小泉による実施)



	
<p>2012.6.25 畑の様子</p>	<p>2012.6.25 畑の様子(りりこトマト)</p>
	
<p>2012.12.17 畑の様子</p>	<p>2012.12.17 畑の様子</p>

同様に SVA は大谷地区の天が沢仮設住宅地区に隣接する畑を借り受け、共同農園を開始した。スタート時には、NHK の「趣味の園芸やさいの時間」の講師の指導をきっかけに、共同農園開始のよい契機になっていたようである。この、NHK の「趣味の園芸やさいの時間」講師取材により、当初畑をやる予定だった住民より多くの住民が、共同農園を始めることとなり、現在では、6区画(みんなの区画、SVA 区画の2区画を含む)での栽培が行われている。そのうちの1区画は、元々畑をやったことはない、というご夫婦が鳥からの被害を防ぐために、自分の区画を立派な網の囲いで囲っているのがとても印象的である。

また、今後も引き続き地主さんからは畑を自由に使ってよいと許可をもらっているとのことで、共同農園の発展も期待される。

○天ヶ沢共同農園の畑の様子(SVAによる実施)



2012.5.13 最初の畑の様子



2012.5.13 やさいの時間\_\_作業風景



2012.5.13 やさいの時間による作業風景



2012.5.13 共同区画の完成



2012.6.10 畑の様子



2012.6.10 初心者ご夫婦の畑の様子



○振り返りと今後への引継ぎ

当初は、単なる農園の整備支援に止まらず、農園の運営自体にも参加者の意見を取り入れながら、参加者に主体的な運営を任せられるような共同農園づくりを目指し、さらに地域の人が集まるような場としての役割も担うべく整備を進めたいと思っていたが、達成が難しい部分もあった。

以下の点が今後の運営の課題となる。

【今後の課題】	【必要な入力、想定される改善策】
1.参加者が中心となり農園の運営を進めていく	継続的な話し合いが基本ではあるが、こちら側の関係者も畑にいて、作業する時間を多くして、参加者と信頼関係を構築しないと難しいかもしれない。
2.社会福祉協議会や他の支援団体との連携	引き続き関係構築を行っていく必要があるが、人材面等で不確定な要素も多い。
3.周辺住民にもっと入ってもらおう	周りで畑の管理人的な存在になってくれる人を見つけて、常時人が畑に居て、人を呼び込むような工夫が必要である。
4.人が集まる場所に育てられるか	こちら側の都合で収穫祭などのイベントができなかった問題もあったが、「畑に人がいるだけで人の集う場所になるのか？」という部分も含め、検討が必要ではないか。

【自主性を引き出すことのむずかしさと細やかなケアの必要性】

高い目標の1つであった、『人が集まるようなコミュニティスペースにしたい』ということに関して、決して達成出来たとは言えなかった。畑作業に来る人たちだけでなく、畑周辺の住民、畑を通り掛かる住民が気軽に集えるようなコミュニティスペースにする事が大きな目標であったが、この実現は私たちが想像する以上に難しいということも、畑を進めていく中で実感した。

また、当初は自分たちの意見だけでなく、参加者の意見を聞いてみんなでやり方を考えていきたいと思っていたが、過度な負担になってはいけないという思いや、どこまで突っ込んだ事を聞いてもよいのか距離感がつかめなかったこともあり、なかなか参加者の気持ちや状況が分からず、農園実施を通して参加者から意

見を多く聞き出すことはできなかった。

その上で、今後畑参加住民や地域の人へ今後畑の管理等を任せる方向で進めるなら、ある程度の負担や一緒に進めていくという事をもっと全面に出して行く必要がある。調整には大きな労力がかかるだろうが、長期的な観点からその可能性について検討してほしい。

また、畑をいつまで借りられるかという問題が、農園の地主との間でもなかなか明確にする事が出来ず、畑参加住民に不安を与えてしまうことになっていたが、この点は、今後関わる人間が、関係各位とこまめに連絡を取りながら、参加者への不安のケアを行ってほしい。

#### 【継続的なインプットの必要性】

ボランティアで来てくれる学生が畑で作業をしていると、通りがかりの人や畑参加者の住民が声を掛け、立ち寄ってくれる事が多々あった。しかし、私たちが作業をしていない時には畑に人気はなく、畑参加者の住民と、畑周辺の住民との間にコミュニケーションがあったのかは分からない。

このことから、畑をコミュニティースペースにしたいのならば、常にその畑に誰か人がいる状況を作らなければいけないと感じた。「誰か人がいることで、人が寄ってくる」。それは私たちのような外部の人間がいればなおさらで、ずっとは無理にしても、「畑=コミュニティースペース/気軽に立ち寄れる場」という事が定着するまでは、常に畑に誰かいて、いろんな人と顔見知りになったり、話しかけたりし続けることが必要だと思った。

#### 【計画の不足、農業技術の向上の必要性】

また、こちら側の計画不足で、一番の交流のきっかけになる収穫祭が、実施予定の時期に収穫物が無かったこと、開催時期を延期した等が原因で出来なかった。しかし、収穫物がなくても、“みんなで集まる”ということに焦点を当てれば、収穫祭ではなくても、交流会を行うことにも意味はあっただろう。

同農園内のアプカス区画の畑の作物に関しても、植える時期や管理が行き届かなかったために、可哀想なことになってしまった。もう少し、こまめに面倒を見て収穫したり、早めに定植させたりする事が出来ればもう少し違った畑の風景になっただろう。

## ○私にとっての共同農園

今回、私自身が畑に興味を持っているということで、主体的に共同農園を進めさせてもらったことは、私にとってとても大きな経験となりました。また、前述の通り、多くのボランティア、土地の所有者、地元の方々に協力をいただき共同農園を始める事ができ、人のあたたかさを感じる日々でした。

一方で、2012年春に畑整備を行っている時、当初の計画策定時に「この農園は絶対に必要だ」と思っていたものの、当初は参加を表明していたはずの住民から「畑はね〜…」、「この土じゃねえ」というモチベーションの変化を感じる声を聞き、大きな不安を感じた時期もありました。「誰も参加者がいなければ、この作業やみなさんの想いを裏切ってしまうことになる」というプレッシャーが募り、色んな方への声かけも、「畑をやりませんか？と勧めることは、押しつけになってしまうのではないか？」と思った時期もありました。

そのような時期もありましたが、今になると、ニーズを聞いて押しつけにならないようにするのは大事だけど、「自分が良いと思うことを自信を持って人に勧めなければ、せっかく興味を持ってくれたり、良いなと思って一歩踏み出そうとしている人の“やりたい”という気持ちへのもう一押しが出来ない」という事に気付きました。

また、住民の方に畑をやってもらうことが一番の狙いではありましたが、「人の集まる場」にするためには、参加者のやりやすい環境を整えるとともに、アプカス区画に手を掛けたり、日々の関わり方に工夫をしたり、自分たちが楽しみながら「気になる畑」を作ることには力を入れられれば良かったなと思っています。また、「今後、もし自分が畑を行えるような機会があったとき、自分が何に力を入れるのだろうか」ということを考えるきっかけになりました。

まだ答えは出ませんが…。

2013年3月 堀池舞子





2012年10月3日 酪農学園大学や明石高専の学生から、手作りの農園用の垂れ幕などプレゼントしてもらった


6. 資料(農園のチラシなど関連資料)

○共同農園参加者募集用配布チラシ

みなさん、長い冬もやっと終わりました!



この春から、「畑しごと」しませんか?  
～近くの畑で楽しみながら・・・  
みんなで野菜を作って、心も体も健康に!!～



---

**農園に参加希望の方を募集しています!!**

農園のプラン

- 仮設住宅から徒歩10分の土地(気仙沼信用金庫となりの農地)で、おひとりずつに区画がある「共同農園」を春から予定しています。
- 土地と農作業に必要な道具は、無償で貸出いたします。
- 野菜や花の苗は、ご自身で準備ください


↓ ※現在第一次希望者を募集しています

今後の予定

- 希望された皆さん、興味があるという皆さんを対象に、「畑をどう準備するか? 畑をどう区切るか?」など、具体的な農園の運営・決まり事について話し合う場を設けたいと考えています。

※「興味はあるけど迷っている」「もう少し話を聞きたい・・・」など、ご質問、ご要望等ありましたら、お気軽に問い合わせください

夏野菜、お漬物、果物



【問い合わせ先】 アプカス/堀池 090-9085-2054

※○月○日まで、自治会長 千葉一郎さんに、下記希望用紙をご提出ください。

農園希望調書

お名前: \_\_\_\_\_ ( ) 農園に参加を希望する

部屋番号: \_\_\_\_\_ ( ) 興味はあるが迷っている

ご連絡先: \_\_\_\_\_ ( ) 直接もう少し詳しく聞きたい

農地の場所/津谷高岡仮設住宅 周辺図

農園の場所は?



仮設住宅団地から徒歩10分で行ける農地(気仙沼信用金庫となり)をお借りします。お借りできる期間は未定です。



実際の農地の様子



共同農園とは?



「なぜ、共同農園?」



先の新潟中越地震の新潟県山古志村での例では、仮設住宅近くの農園での畑仕事が「生きがいになった」「交流のきっかけになった」という声が、多数あがりました!

農地を、各参加者に決められた区画を割り当て、各自の好きな野菜を育てていただきます。



山形県蔵王『みはらしガルデン』の共同農園の様子

みなさんの参加をお待ちしています!

○農園の掲示物(参加者募集のデザイン)



設置した看板の様子

# 今、取り組んでいること

## ① はたけづくり



ボランティアの方に参加していただき、畑の石拾い、区画分けをしています



たい肥の運び入れ

ココソイルという天然の  
土壌改良資材を入れ、  
土をふわふわにします。



みんなで育てる共同  
スペース畑用の苗を  
栽培しています

## ② みんなの畑にするために

皆さまから貴重なアドバイスやご協力をいただき、  
色々教えて頂きながら、より親しみのあるスペース  
作りを目指します!



参加希望をされる皆様  
を募集しています!!



## ③ 立ち寄りスペースづくり

お立ち寄りスペースのデザインを  
行っています



# 使いやすく楽しい畑にするために

## ① 共有スペース、農具、タンクなどは

使い終わったら清掃、雨に濡れないように所定の場所へ戻すなど、みなさんで協力して管理・使用しましょう



## ② 用水路

## ③ 畑の石ころ

各自で用意した袋に入れておいてください



草、ごみを流さず  
きれいに保ち  
ましょう



## ④ 周辺の雑草

伸びたら、みなさんのできる範囲で草を刈っていただくと助かります



## ⑤ 刈った後の雑草

草は、敷地内の踏み込み堆肥に追加すると堆肥に変化します。なお、米ぬかを入れると熟成が促進されます



## ⑥ ワラ

ご自由にお使いください



??? ???????????????  
??????

අප්‍රමේ අවුකණ

アブカネ



※草むらで赤マムシが目撃されています!お気をつけください